

## I 事業の概要（地域の実情含む）

・本校は東日本大震災津波により甚大な被害を受けた野田村にある唯一の中学校である。平成 29 年まで校庭に仮設住宅が立ち並び、校庭が使用できなかったため、テニスコートを校庭として利用し授業や行事を実施するとともに、部活動では村内の体育施設を利用しながらひたむきに努力を続け、好成績を収めてきた。年々地域の復興も進んできており、校庭に設置されていた仮設住宅は撤去され、平成 29 年 9 月には校庭使用の再開がなされた。現在校庭は、授業や部活動などの諸活動に使用ができるようになり、学校環境や学校生活も震災前の状態に徐々に戻りつつある。

・本校では、「郷土野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」を目指して、地域の素財や外部の人財を効果的に活用した教育活動「太陽プロジェクト」を展開している。地域の未来を担う「ひとつづくり」が本校の使命であり、学校・保護者・地域が協働して、教育活動の充実を図っている。特に、創作太鼓の継承と発展を復興教育の大きな柱として位置づけ、表現力の向上を図りながら地域貢献活動にも取り組んでいる（復興教育）。生徒たちは「野田村の太陽になろう」を合言葉に、元気や笑顔を発信するとともに、今まで支援をいただいていた方々や学校に感謝の気持ちを表そうと、様々な活動に取り組んでいる。また、地域の災害リスクに関する学習や避難訓練を通して、自然災害発生メカニズムや災害を回避するための知識や技能を身につけ、生徒が自らの命を守り、生きるためにどのような行動をとればよいかを考え、実践しようとする態度を養う取り組みを行っている（防災教育）。

## II 取組の概要

### 1 創作太鼓への取り組み

#### (1) 創作太鼓指導会

##### ア ねらい

創作太鼓の活動を通して、表現力の向上を図りながら、自分たちの活動で地域を元気づけようとする想いをもち、主体的に地域に関わろうとする態度を育てる。

### イ 活動内容

東日本大震災後、「野田村の太陽になろう」を合い言葉に、自分たちが地域の方々を元気づけられるひとつの手立てとして創作太鼓に取り組み、7年目となる。使用する太鼓は、歌手の稲垣潤一氏や台湾ロータリークラブ、校長会からの支援、タイヤを利用した手作りの太鼓である。外部の人財として、邦楽作曲家の佐藤三昭氏と太鼓演奏者の三浦公規氏を招き、年3回（9月、1月、2月）学年に応じた太鼓演奏を指導していただいている。指導会を中心として、それぞれの曲に込められた想いや背景を自分たちで考え、カタチにし、様々な機会をとらえ、創作太鼓を通して、支援への感謝や地域を元気づけたいという想いを発信している。

### 2 地域行事への参加及び地域・他校との交流

#### (1) 地域行事への参加及び地域の方々との交流

##### ア ねらい

地域の行事への参加や地域の方々との交流を通して、たくさんの方々とかかわる中で、地域の一員として自分たちにできることを考え、実践していこうとする態度を養う。

### イ 活動内容

#### (ア) 野田まつり(8/25)

8月に行われた地域行事（野田まつり）にて、1、2年生は野田中ソーランを、3年生は創作太鼓と野田中ソーランを披露した。中学生が頑張る姿を観ていただくことで、「野田村の太陽」となるべく、地域の方々に元気を与える活動を行った。



## (イ) お達者同窓会(7/4)

本校会場で行われる介護予防普及啓発事業「お達者同窓会」において、参加した高齢者の方々と福祉体験を行ったり、野田中ソーランや創作太鼓を披露したりするなどの活動を通して、地域に暮らす方々との交流を深めた。

## (2) 他校との交流

## ア ねらい

学校間交流を通し、他校の取り組みの様子を知り、視野を広げるとともに、野田村の復興の様子や本校で取り組んでいる三大文化を発信することで、自分たちの成長に生かしていこうとする態度を養う。

## イ 活動内容

## (ア) 兵庫県西宮市立山口中学校との交流

東日本大震災以来交流を深めている山口中学校と本校の生徒会とで、夏休みの期間を利用して交流会を実施して交流を深めた。また、野田まつりの際には、山口中学校生徒会4名と本校の3年生、そして久慈市立長内中学校の有志の方々とともに、ソーラン節を披露し、地域のまつりを盛り上げた。

## (イ) 盛岡市立厨川中学校・矢巾町立矢巾中学校との交流

10月に行われた2年生の宿泊研修の際に、厨川中学校と矢巾中学校の2校を訪問し、野田中ソーランを発表して交流を深めた。矢巾中学校とは東日本大震災以来、毎年交流を続けている。今年度も3月に、矢巾中学校より支援していただいているもち米を使って、本校で餅つきプロジェクトを実施する予定である。

## 3 外部人財を生かした復興教育

## (1) 野田村の現在を未来に伝えるプロジェクト

～ニコン中学生フォトブックプロジェクト～  
(2学年)

## ア ねらい

震災から10年(2021年)を見通し、震災を乗り越え、たくましく歩む野田村の人々の姿や美しく豊かな自然、そして復興しつつあるふろさと野田村の今の姿を写真におさめ、中学生が感じる想いととも未来へ伝える。

## イ 活動内容

株式会社ニコンの協力を得て、次のような活動を通し、自分たちの感じる想いととも未来

へ伝える取り組みを行った。

- プロのカメラマンによる写真講座
- カメラの使い方教室
- 1人1台のカメラを使用した写真撮影
- 文化祭において撮影した写真を展示
- フォトブックの作製



## (2) 外部人財を生かした未来を担う人づくり

## ア ねらい

外部人財を招いての講話や活動から、講師の生き方や考え方などに触れ、学ぶことで、自己の生き方に生かそうとする態度を養う。

## イ 活動内容

## (ア) 塩の道講演会(1学年)

久慈広域環境協議会の貫牛利一氏を講師に招き、野田村で塩づくりが盛んになったわけや村おこし、復興への思いを講話いただいた。(6/7)

## (イ) スポーツ笑顔の教室(1学年)

元Jリーガーの小針清允さんを講師に、体を動かしてのゲームや、仲間の大切さと夢の実現に向けた努力の尊さについて講話いただいた。(6/22)

- (ウ) ～想いを言葉に、言葉をカタチに～講演会  
全校を対象に、花巻東高等学校硬式野球部監督佐々木洋氏を講師に招き、「夢を実現する」をテーマに、夢の持ち方や目標の立て方など、自身の学生時代も話題に取り上げながら講演いただいた。(11/9)

**Ⅲ 取組の成果と課題**

## 1 取り組みの成果

- (1) 「野田村の太陽になろう」を合言葉に、創作太鼓や野田中ソーラン、合唱など様々な活動に取り組む中で、自分たちの活動で地域を元気づけようとする想いを強く持つことができ、それぞれの活動に積極的に取り組むことができた。特にも、東京2020オリンピック・パラリンピック2年前イベントやいわての復興教育児童生徒実践発表会

での発表を通して、より一層の復興への願いや感謝の想いを県内外へ発信することができた。

- (2) 地域の高齢者との交流会（お達者同窓会）では、消極的な態度で参加していた生徒も、野田中文化や防犯寸劇の発表、福祉体験など、高齢者の方々と共に活動することで、徐々に積極的に行動する姿が見られた。また、福祉施設訪問においては、施設の方々と一緒にスイカ割りや盆踊りを楽しみ、地域の一員として自分たちにできることについて考え、人とのかかわりを大切にしながら行動しようとする姿が見られた。
- (3) 外部の指導者を招いての太鼓指導会を通して、復興太鼓として始めた当時の願いや曲に込められた想いを考え、自分たちの太鼓に生かし、工夫しながら自分たちの想いを込めた太鼓を創り上げることができた。震災後に始まった創作太鼓を先輩から継承し、さらに発展、進化させていこうと高い意識をもって取り組み、その成果を学校行事や地域行事などで披露することができた。
- (4) 塩の道講演会やスポーツ笑顔の教室、花巻東高等学校硬式野球部佐々木洋氏の講演会など、外部人財を講師に招き、本物に触れることで、講師の生き方や考え方から、未来を担う人材として自己の将来について考え、生かそうとする思いが高まった。
- (5) ニコンフォトブックプロジェクトの取り組みにより、これまであまり目を向けることがなかったものを、ファインダーを通して見つめなおすことで、今まで気づけなかった野田村の姿やすばらしさを発見することができた。また、野田村の復興への歩みを実感することで、自分たちの故郷をより大切にしていこうとする気持ちが強まった。そして、自分の目で見たふるさとの姿をもとに、歴史や風土、文化、震災時のことにも想いを馳せ、そのイメージを創作太鼓の表現につなげた。
- (6) 岩手県防災センターでの防災学習（2 学年）や校内での避難訓練を通して、災害時に身を守る手立てを知り、どのような心構えが必要であるかを学ぶことができた。災害時における備えや自分の身を守る方法、命の大切さについて考え、防災に対する意識を高めることができた。

## 2 課題

- (1) 生徒や教員が年々代わっていく中で、本校の創作太鼓に込められた願いや想いを風化させずに、次世代にどのように継承していくかを考え、意図

的な指導場面を設ける必要がある。また、これまで継承してきた文化を、次は伝統という段階にしていくために、どのような手立てが必要になっていくのかを考えていかなければならない。

- (2) 復興教育に関わる補助金や義援金が少なくなっていく中で、外部指導員を招いての太鼓指導会や諸活動を行っていく上での運営活動費を、いかに捻出し維持・発展させていくかが課題である。

### 参考資料

【今年度、創作太鼓に取り組んだ生徒の感想：3 学年】

- ・太鼓指導会で、技術面でも、想いの面でも、たくさん学ぶことができた。特に、強くたたかずに体を使うと自然にいい音が出ることを知り、余計な力を入れずに演奏することができた。
- ・曲に込められた想いを感じ取って、自分なりに表現して、見ている地域の方々へ笑顔を届けることができてよかったです。
- ・練習するたびにどんどんレベルの高いものを目指していくようになり、体の動かし方など少し難しい部分もあったけど、自分なりにどうすれば少しでも良くなるかを考えながら取り組むことができた。
- ・2 学期は、オリンピック 2 年前イベントや文化祭、野田まつりなどの様々な場面で演奏する機会がありました。1 つの行事ごとに成長することとできたと思います。また、太鼓指導会で教わったことを全員が心がけて技術面でも、気持ちの面でもレベルアップした演奏ができたと思います。
- ・一番に感じたことは、どれだけきれいに演奏しても、1 人 1 人の想いが一つにそろわなければ、自分たちの想いは届かないということです。そして、想いを伝えるために、想いをカタチにするということが大事だと学びました。
- ・様々な場面で発表する機会が多く、その度にクラス全員の成長が感じられました。特に、オリンピック 2 年前イベントの人数がとても少ない状態で途中ずれてしまうことがあったけど、最後までやり通すことができたし、1 人 1 人が大きな振り、声でとても良い演奏ができました。
- ・オリンピック 2 年前イベントや太鼓指導会を通して、技術面でも成長できたし、その曲に込められた想いを学ぶことができた。
- ・振りの仕方や声の部分で、自分でできる限り大きくしてみたり、人に頼らずに声を出したりすることができた。指導会などを通して、少しずつ腰を低くすることができた。